

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 1 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、ご参照の上、防除指導方よろしくお願ひいたします。

記

情報の内容 ヤノネカイガラムシ第一世代幼虫の早期発生について

対象作物 かんきつ類

1 発生状況

ヤノネカイガラムシにおける第一世代幼虫の初発は、南予地域の最も早い調査地点では 4 月 28 日であり、平年に比べ 11 日早かった。また、中予地域では松山市下伊台で 5 月 9 日が初発と平年より 7 日早く、松山市上難波でも 5 月 12 日と平年より 6 日早かった。以上のことから、全県的に概ね平年より 7～10 日程度早いと考えられる（表 1）。

2 発生生態

カンキツ類にのみ寄生し、主に成虫で越冬して年 3 回発生する。第 1 世代の幼虫は 5 月上・中旬頃に発生し始め、2 齢を経て成虫となる。成虫に達するまでの期間は 45～60 日程度である。第 2 世代幼虫は 7 月中・下旬頃、第 3 世代は 9～11 月に発生するが、第 3 世代の発生量は少ない。

3 被害

葉や枝に多数寄生すると、落葉するとともに激発した場合は樹全体が枯れることもある。果実に寄生すると商品価値が著しく低下する。

4 今後の防除上の注意と対策

- (1) 薬剤の防除適期は、第一世代幼虫初発日から 30～35 日後である。但し、アプロード水和剤、アプロードエースフロアブルでは散布時期を早める必要があり、第一世代幼虫初発日から 20～25 日とその時期にあたる（表 2）。
- (2) アプロード剤、スプラサイド乳剤 40 の感受性が低下している園地がみられるので注意する。
- (3) 1 か月予報（5 月 3 日発表）によると、気温が高いと予想されており今後の生育が早まると考えられ、防除時期が遅れないようにする。

表1 ヤノネカイガラムシ第一世代幼虫初発日

対象地域	調査地点	平年比較	平年	本年(H30)	昨年(H29)
中予地域	松山市下伊台	7日早	5月16日	5月9日	5月16日
	松山市上難波	6日早	5月18日	5月12日	5月16日
南予地域	八幡浜市合田	11日早	5月9日	4月28日	5月13日
	八幡浜市穴井	6日早	5月6日	4月30日	5月8日
	八幡浜市川上	5日早	5月6日	5月1日	5月7日
	八幡浜市真網代	8日早	5月8日	4月30日	5月9日
	八幡浜市向灘	0日	5月9日	5月9日	5月12日

平年：平成20～29年の10年間(但し、八幡浜市向灘は平成21～29年)

表2 ヤノネカイガラムシに登録のある主要薬剤(平成30年愛媛県農作物病害虫等防除指針抜粋)

防除対象(登録)	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数		人毒	水産(注)
			かんきつ(温州みかん除く)	温州みかん		
カイガラムシ類幼虫	アブロード水和剤※	1,000倍	収穫45日前まで/3回以内	収穫14日前まで/3回以内	普	○
カイガラムシ類	アブロードエースフロアブル※	1,000倍	収穫45日前まで/2回以内	収穫14日前まで/2回以内	普	×
カイガラムシ類 (幼虫～未成熟成虫)	スプラサイド乳剤40	1,500倍	収穫90日前まで/4回以内	収穫14日前まで/4回以内	劇	△
カイガラムシ類(若齢幼虫)	ダーズバン乳剤40	1,000倍	収穫60日前まで/1回	収穫30日前まで/2回以内	劇	×
カイガラムシ類	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	収穫前日まで/3回以内	普	○
カイガラムシ類	オリオン水和剤40	1,000倍	収穫14日前まで/5回以内	収穫14日前まで/5回以内	劇	△
カイガラムシ類	コルト顆粒水和剤	3,000倍	収穫前日まで/3回以内	収穫前日まで/3回以内	普	△
カイガラムシ類	トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	収穫前日まで/3回以内	普	○

※：薬剤の特性により、散布時期を早める薬剤

(注)水産動植物への影響(詳細は平成30年愛媛県病害虫等防除指針p8参照)